

第 108 回日本陸上競技選手権大会

【出場結果】

実施日 : 6月27日(木) 1500m 予選
会 場 : 新潟・デンカビッグスワンスタジアム
出場者 : 小林 航央
出場種目・出場者・リザルト

氏名	小 林
種目	1 5 0 0 m
組	予選 2 組 (全 2 組)
タイム	3' 49" 28
順位	9 / 1 5 位 (予選敗退)

【レポート】

小林は、昨年度の日本選手権では 1500m の部で見事に決勝に進出し、9 位となりましたが、僅かに入賞に届かなかった悔しさを、1 年をかけて日々の生活やトレーニングに落とし込み、1500m という種目に懸けてきました。

春先には 3 分 45 秒の日本選手権標準記録突破を狙って 2 月からレースに臨み、7 回目のチャレンジとなった 5 月末の世田谷記録会でようやく 3 分 43 秒 23 と標準記録を更新するタイムをマークして今年の舞台に立つ権利を得ることが出来ました。

日本選手権の出場を決めてからの 1 ヶ月間は、筑波大学時代の恩師と二人三脚でトレーニング計画を立て、日本選手権入賞を目標にハードなトレーニングをこなして、小林としてもベストなコンディションに身体を仕上げてレースに臨みました。



気合のこもった表情で、スタートを待つ小林

レースは予選2組で構成され、各組とも上位6着までに入ると決勝進出となりますが、小林は2組目のエントリーとなり、2組目には外国人選手がいるため、400m60秒を切るハイペースでレースを先導する展開で、小林もレースの流れに乗って走りました。

800m過ぎまでは余裕のある走りで、ラストの勝負処を描きながらの走りが出ていましたが、1000mを2分29秒前後で通過したところから集団から遅れだし、ラスト一周の鐘がなったところでは集団とは距離が空いてしまい、予選通過争いからは脱落した形でラストを迎えました。

先頭集団はラスト200mで6名の選手が、転倒に巻き込まれるというアクシデントが発生しましたが、集団から離れてしまった小林はいつものキレのある走りを見せることなく組9位となる3分49秒28でのゴールとなりました。



陸上人生を懸けて日本選手権に挑んだ小林

【総 評】

1500mを走るのは、これで最後という強い気持ちを持って臨んだ日本選手権でしたが、入社後一番トレーニングが詰めた状態であっても、日本選手権という舞台は出場する選手達がベストパフォーマンスで勝負をしてくるため、僅かなピーキングの差が命取りになるということを痛感させられました。

本気で臨んで突き返された現実には、小林しか分からない苦しさ、悔しさがあったと思います。言葉では言い尽くせないことはありますが、まずは一度気持ちをリセットして次の目標に向けて取り組んで欲しいと思います。

多くの皆さまにご声援を頂き、本当にありがとうございました。

引き続き皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。